

第7回 仙台I ソンタクラブ 東北大学大学院
女子学生のための国際学会発表支援事業（後期） 報告書

2025年 3月 31日 記入

所属部局名：教育学研究科
学 年：博士課程前期2年
氏 名：鈴木 光海

1. 参加国際学会等の名称
The Asian Conference on Psychology & the Behavioral Sciences (ACP2025)
2. 開催期間
2025年3月24日～2025年3月29日
3. 発表演題
Differences in the Psychosocial Status and Childcare Needs of Parents Using Kindergartens, Nursery Schools, and Children's Centers in Japan

4. 参加した国際学会等の状況並びに感想

発表には多くの方にお越しいただきました。とくにアジアの女性研究者（具体的にはフィリピン、マレーシア、台湾、香港、日本）の妊娠出産子育て経験をも有する方々から、実情をふまえた研究知見を教えてください、議論をすることができました。

日本が有する幼稚園・保育園・こども園という3施設とその種別については、認知度が非常に低く、とくにこども園についてはその存在意義および実態についての質問が多く寄せられました。日本人研究者からも「こども園とは？」という素朴な質問もあり、日本のこども園や独自の制度の認知を高めるということだけでも、本発表の意義があったと考えられます。親の就労条件だけでなく、親子のさまざまな心理社会的状況や保育ニーズが入園先決定と関わるという日本の現状とそれとは異なる海外の状況にも改めて着目がなされました。

また日本の就学前教育における給食および弁当に注目が集まり議論が盛り上がったことも新鮮でした。さらに「自由で主体的な遊び」や「自然教育・保育」といったキーワードが各国の研究者から挙げられたことも、印象的でした。

国際的な視野から、日本の就学前教育および子育て家庭に対する支援を考えることができ、とてもうれしくありがたく感じる発表でした。今後の研究にも活かしていく所存です。ありがとうございました。

5. 本事業に対する要望等

旅費の支給をいただき大変ありがたく思っております。今後、もし可能でしたら、発表時間帯の託児料および発表者の子ども分の旅費等の支援も想定または設定していただけますと、子どもを産んだばかりまたは子育て真っ只中の女子大学院生でも発表がかない、研究のさらなる発展につながることを期待されます。本国際学会には、子ども連れでの海外研究者も多く参加、発表なされていまして（自身も3人の子どもを連れて行きましたが、さまざまな困難があり、発表時間中も会場の多くの方々に助けられ発表がかないました。研究は鮮度も重要と考えられますので、出産子育てが障壁になり発表ができないまたは遅れるということがないようにサポートしていただけると、大変助かります。）。女子大学院生の子育てと学業および研究の両立支援は、学術的发展だけでなく少子化対策にも貢献することが考えられます。ぜひご検討いただけますと幸いです。

しかしながら、物価高および円安の中、非常に助かりました。本当にありがとうございました。来年度以降も多くの女子大学院生が国際学会における発表の機会を得ることにつながりますように、引き続きどうぞよろしく願いいたします。

※ この報告書は、本事業の出資団体である「仙台 I ソンタクラブ」への事業成果報告として提出します。

※ この報告書は、本学 DEI 推進センターホームページに掲載します。